

令和5年度 学校経営計画に対する中間評価報告書

石川県立七尾城北高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	実現状況の達成度判断基準	中間評価および今後の課題と改善策
1 GIGA スクール構想の ICT 機器等を活用した個別最適な指導(個別化)と学習(個性化)を改善・向上させ、基礎・基本の定着を更に行うとともに、授業のユニバーサル化(視覚化・音声化・焦点化・共有化など)を一層推進することで、主体的に学習しようとする態度を育む。	① 視覚化・音声化・焦点化・共有化などのユニバーサルデザイン化の観点を取り入れた個別最適な授業を行う。	教務課 全教職員	「ユニバーサルデザイン化の観点を取り入れた個別最適な授業・指導ができている・ほぼできている」教職員の割合が、 A 100% である B 80% 以上である C 70% 以上である D 70% 未満である	GIGA校内研修が進むにつれ、ユニバーサルデザインフォントを使用した教材が生徒の理解を助けるとの共通理解が進み、各教員が工夫を凝らした教材作成にあたった。 教員対象の自己評価アンケートでは、「授業の展開ができた」が14%、「まあまあできた」86%で、全ての教員が実践できている。生徒への授業評価アンケート結果からも、「わかりやすい」86%、「スライドなどが参考になる」85%という評価を得た。今後も研修を重ね、わかりやすい授業となるよう努める必要がある。 <p style="text-align: right;">評価 A</p>
	② ICT機器の効果的な活用や協働を促す授業を行う。	教務課 各教科	「主体的に授業に参加できている・ほぼできている」生徒の割合が A 85% 以上である B 65% 以上である C 50% 以上である D 50% 未満である	生徒による授業評価アンケートでは、「授業に意欲的に参加している」との回答が75%であった。ICT機器の活用が特別なものではなく、日常的な授業風景となりつつある。「基本的学習態度ができている」と回答した生徒も83%おり、今後は、一人一台端末のさらなる有効活用を研究していく必要がある。 <p style="text-align: right;">評価 B</p>
2 学校生活全般を通して社会に必要なルールやマナーの定着を図るとともに、集団活動の中での役割を担うことで自己肯定感を高める。	① 各種教室(非行防止教室、防犯教室など)の開催により、生徒の規範意識を高め、ルールやマナーを守ることの大切さを意識させる。	生徒指導課	「ルールやマナーを守って学校生活を送っている・ほぼ守っている」生徒の割合が A 95% 以上である B 85% 以上である C 75% 以上である D 75% 未満である	生徒による前期学校生活における調査では「ルールやマナーを守って学校生活を送っている」と回答した生徒は58.3%(昨年度59%)、「ほぼ守っている」と回答した生徒が36.1%(昨年度41%)であった。 ルールやマナーを守ることの大切さについては、集会や各種教室を通して継続的に指導し、生徒会活動やLH等において生徒が自ら考える機会を増やす。 <p style="text-align: right;">評価 B</p>
	② 学校行事や生徒会活動等への参加により、集団の一員としての自覚を持ち、自己肯定感を高める。	生徒指導課	「学校行事や生徒会活動等に参加し、自分の役割を果たした・ほぼ果たした」生徒の割合が A 90% 以上である B 80% 以上である C 70% 以上である D 70% 未満である	生徒による前期学校生活における調査では「自分の役割を果たした」と回答した生徒は33.3%(昨年度41%)、「ほぼ果たした」と回答した生徒は38.9%(昨年41%)であった。 学校祭、青春のこだまや球技大会などの学校行事において、「キャリアパスポート」や「振り返りシート」を記入することで、自らを振り返り自己肯定感を高める取り組みを進める。 <p style="text-align: right;">評価 C</p>
	③ 「学校いじめ防止基本方針」に基づき、毎日の生徒情報交換会・個人面談・アンケート等を実施することで、いじめを未然防止する。	生徒指導課 全教職員	「いじめを未然防止する取組をとおり、生徒の現状を理解し、十分成果を上げている・ほぼ上げている」教員の割合が A 100% である B 87% 以上である C 75% 以上である D 75% 未満である	教員対象の自己評価アンケートで、いじめを未然防止する取組が「十分成果をあげている」と回答した教員が37.5%、「ほぼ成果を上げている」と回答した教員が62.5%であった。 SNS や教室内等で友人との関わり方の相談をする生徒はいるが、生徒からのいじめの訴えや報告はない。毎日の教員間での情報交換会、生徒への声かけ、随時の生徒面談などを通して、いじめの未然防止・早期発見に継続的に取り組む。LHや人権週間等を活用して、「いじめ」「偏見」「差別」の問題に対して生徒自らが考える機会を増やす。 <p style="text-align: right;">評価 A</p>

重点目標	具体的取組	主担当	実現状況の達成度判断基準	中間評価および今後の課題と改善策
3	① キャリア教育を推進する中で、社会人として必要な人間力や望ましい勤労観・職業観を育成し、個に応じた進路実現のための指導の充実を図る。	進路指導課	「進路講話、進路学習会、企業ガイダンス等の体験をとおして、勤労観・職業観を持つことができた・ほぼできた」生徒の割合が A 85%以上である B 65%以上である C 50%以上である D 50%未満である	7月に行われた「定時制・通信制高校生を対象とした企業ガイダンス」に参加した生徒のアンケートで、「満足」が50%、「やや満足」が50%であった。また、「知らなかった情勢や仕事の内容を直接聞くことが出来た良かった」「就職して働くというイメージを持つことが出来た」などの感想があった。 就業についての意識を高めるために今年度の求人一覧を教室掲示している。今後も進路講話や個人面談等を通して、勤労観・職業観を育てていきたい。 評価 A
	② 教育振興会と学校の繋がりを深めるため情報発信に務めると共に、会員企業に依頼し、企業見学等を実施する。	総務課	希望する生徒に、会員企業で企業見学等を実施することができた割合が A 100%である B 65%以上である C 50%以上である D 50%未満である	本校教育振興会の会員企業に企業見学等の受け入れを依頼したところ17の会員企業から受け入れ可能の返事をいただいた。卒業予定者以外の生徒に受け入れ可能の会員企業を提示し、希望調査を実施したところ2名の生徒が企業見学を希望した。2名の生徒の希望を聞きながら夏休み期間に3企業の見学を実施した。当日、1名が体調不良で欠席し1名だけの見学になったが、実際に作業をしている現場を見学することができ、大変参考になったという感想を聞くことができた。 評価 C
4	① 家庭や地域と連携した健康教育を推進し、健康安全指導の充実を図る。	保健厚生課	「各種の健康や安全に対する取り組みが生活習慣の改善に役に立つ・ほぼ役に立つ」と思う生徒の割合が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	7月に管理栄養士と連携して食育教室を開催し、望ましい生活習慣や食生活について指導した。事後アンケートの結果、受講者全員が「講演会はよかった・ややよかった」と回答し、同じく全員が「学んだことが今後役に立つ・やや役に立つ」と回答した。生徒は、自分の生活習慣や食生活を見直して課題を見つけ、それを改善しようとする意識を高めた。 後期には、学校歯科医と連携した歯科保健指導を行い、引き続き生活習慣を改善しようとする意識を高める。 評価 A
	② 食育をとおして食の知識を身につけるとともに、食生活を改善するよう指導する。	各担任		
5	① ワークライフバランスの視点を意識し、効率的な校務運営を推進することで、メンタルヘルスの保持増進に努める。	全教職員	「お互いに協力し合うことで効率的に業務を遂行できた」教職員の割合が A 100%である B 87%以上である C 75%以上である D 75%未満である	教員8名を対象に、お互いに協力し合うことで効率的に業務を遂行できたかどうかを尋ねた結果、「よくできた」と回答した教員が13%（昨年度38%）、「まあまあできた」と回答した教員が87%（昨年度62%）であった。 今後さらにICT等を活用して事務的作業の効率化を図り、自らの業務に対して改善の意識を持ちながら職務遂行にあたる。 また、状況に応じて他の教員をサポートしたり、業務内容を分担したりするなどして、業務の平準化を図る。 評価 A
	② お互いに協力し合うことで効率的に業務を遂行する。			